

## ■調査結果と分析と考察

平成19年度のB調査は立花、相去、二子の3地区で実施した。その結果は平成18年度に実施した景観基礎調査を補完するものであり、実施地区は16地区中7地区となった。調査は、それぞれ2～4班編成で、有識者から希望区域についての概要の講義を受けた後、現地調査を行った。各班には北上市内で景観まちづくり活動を実践している、きたかみDESIGNネットワークのメンバーが加わり、景観の良し悪しや好き嫌い、良好な景観の阻害要因を景観マップと景観カルテに抽出し、今後の景観まちづくりの方針を話し合った。以下に地区毎の調査結果を示す。

### ① 立花地区

調査概要：展勝地公園南東に位置する陣ヶ丘を中心に公園

から陣ヶ丘方向の眺め、川岸から川東全体の眺め、陣ヶ丘からの眺望を中心に調査した。

調査結果：陣ヶ丘はツツジや雑木が繁殖し、桜並木をはじめ、北上川、和賀川の眺め、奥羽の眺めが妨げられている。かつては見えていたはずの陣ヶ丘斜面の岩肌や松並木も雑木に隠されている。近年は陣ヶ丘に登る市民も少なく、東屋や案内表示なども手入れがなされていないなどの課題が指摘された。

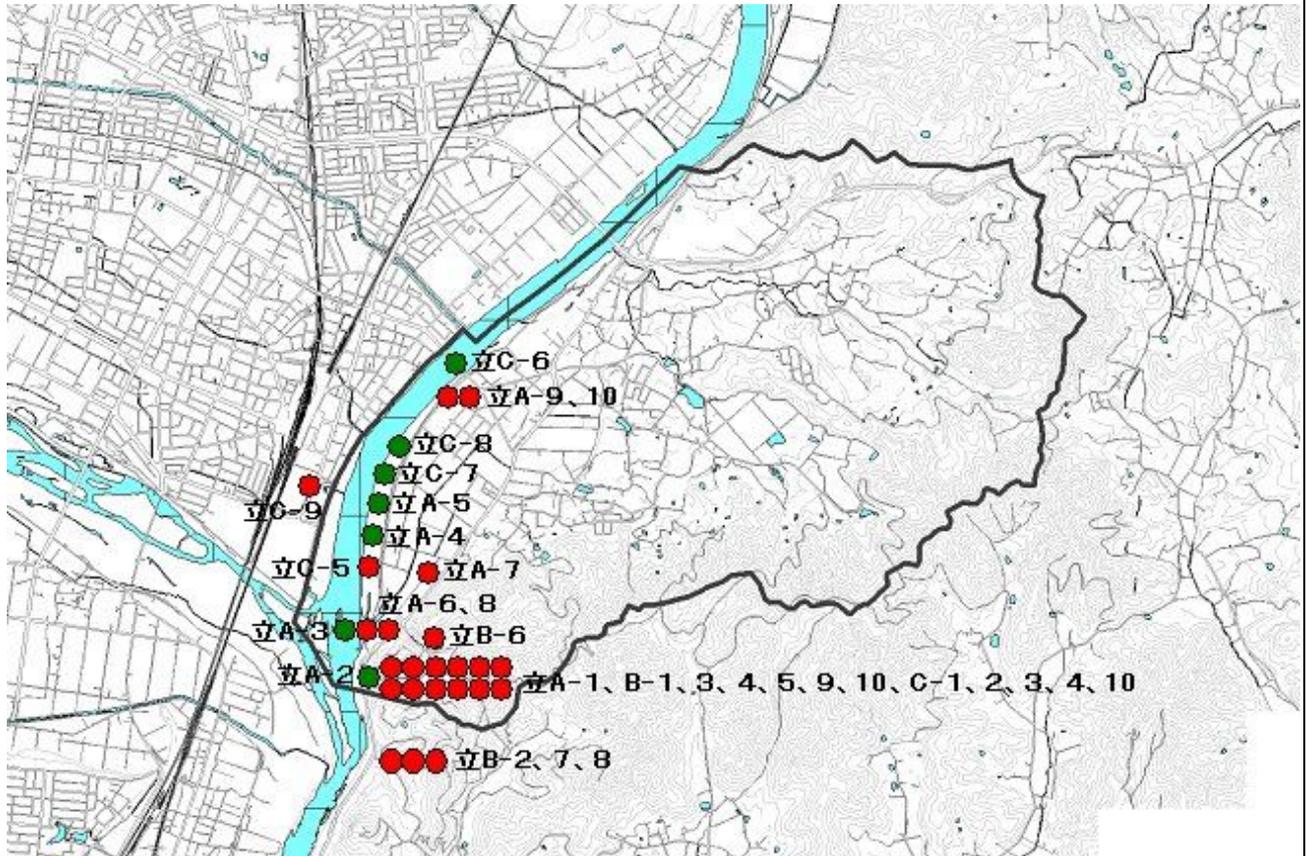


#### 景観資源：

立A-1	陣ヶ丘	立B-1	陣ヶ丘から展勝地方面への眺望	立C-1	陣ヶ丘の岩場斜面
立A-2	陣ヶ丘展望台	立B-2	男山から展勝地方面への眺望	立C-2	陣ヶ丘からの眺望
立A-3	レストハウス合流点	立B-3	陣ヶ丘建物デザインの統一	立C-3	陣ヶ丘アカマツ
立A-4	桜並木と河川敷の柳の木	立B-4	看板デザイン統一	立C-4	陣ヶ丘ツツジ
立A-5	桜並木のあじさい	立B-5	国見山方面への眺望	立C-5	河川敷のヤナギ
立A-6	レストハウス川辺	立B-6	民俗村看板、柵	立C-6	珊瑚橋の色彩
立A-7	レストハウス第3駐車場 倉庫の屋根	立B-7	やすらぎの像周辺	立C-7	ヨシキリの育つ環境
立A-8	レストハウスプレハブ	立B-8	男山階段手すり防腐策	立C-8	川岸からの展勝地景観
立A-9	児童公園テニスコートフェンス	立B-9	陣ヶ丘歩道の枕木	立C-9	駅東口の構造物景観
立A-10	児童公園看板	立B-10	松喰い虫	立C-10	川岸からみた陣ヶ丘ツツジ山

景観資源の分布図：

凡例 ●：活用資源 ●：負の資源



**調査結果の分析:**調査の結果、活用資源が7か所、負の資源が23か所が上げられた。活用資源は陣ヶ丘、展勝地レストハウス周辺、さくら並木周辺などであり、さまざまな形で地域住民による活用がなされている。しかし一方では、活用資源が豊富であるにもかかわらず、周辺の工作物の状態や雑木などで視界が妨げられるなどの負の資源も多く出された。さらにこれらについては、住民、市、県、国などの関係機関が協力して対応しなければならないとの共通認識が得られた。

**考察:**東北有数の景勝地であったはずの展勝地も、実際に点検してみると多くの課題を有していることが分かった。さらに、それらの課題をもつ区域の管理は国土交通省や県であったり、市や民間であったりと様々であることも分かった。これらの課題に対処するためには、住民による自発的な取り組みがまず期待されるころではあるが、管理者間の連携も重要である。今後は、本調査地域を含め、さらに広い区域を設定しながら関係者の連携を強化する必要があると思われる。

## ① 相去地区

調査概要：古くからこの地域の水脈、そして歴史資産として親しまれている白山の森周辺や市姫神社周辺の景観を調査した。

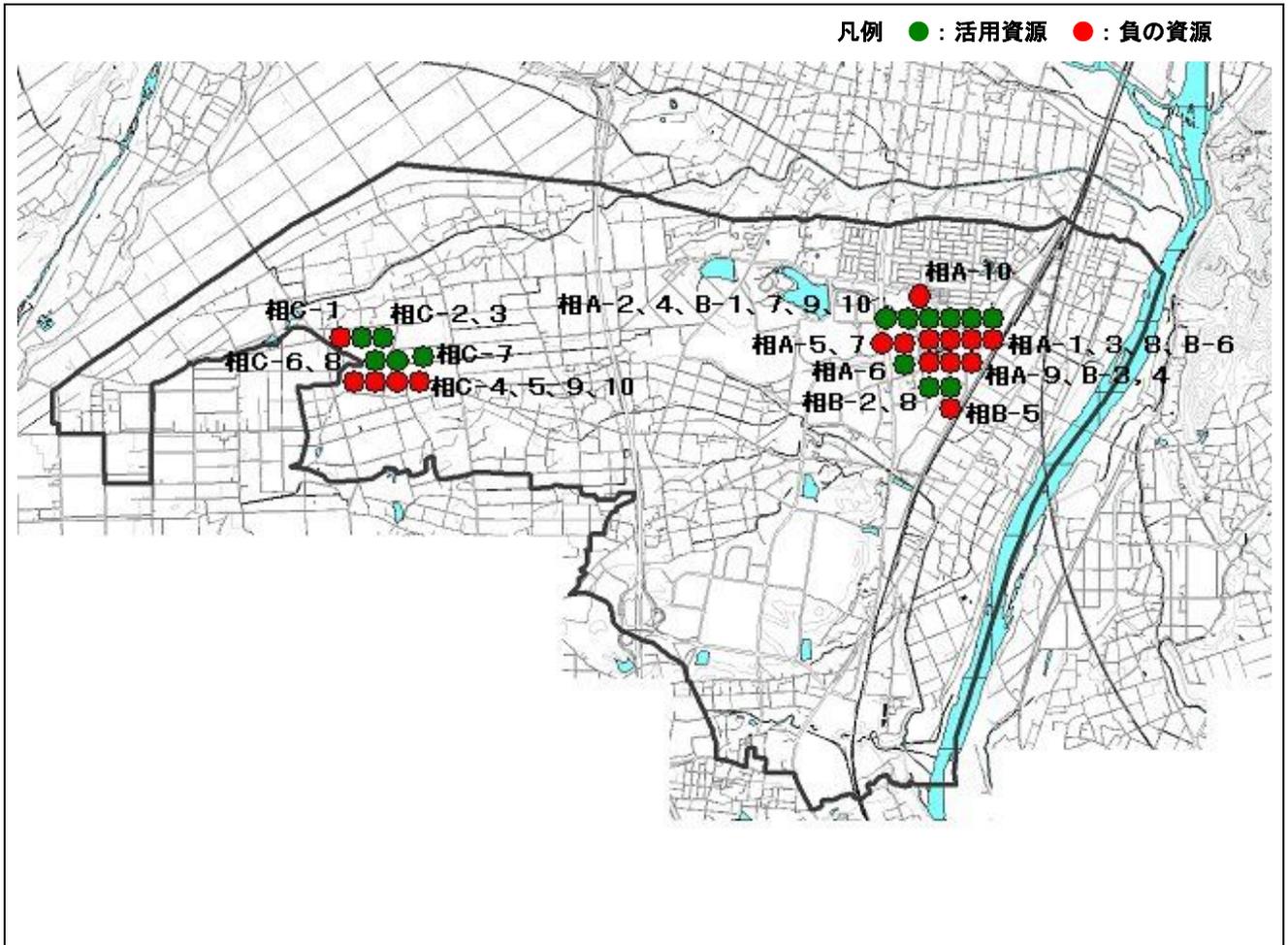
調査結果：白山の森は館跡として空掘りなどがあり、地域の歴史的な場所として意識されている。多くの住民が参加してよく整備されているものの、大きくなりすぎた杉林や水際など、整備されていない部分もあり、課題として指摘された。

市姫神社周辺は歴史的な水源地でもあり、豊かな自然を体感できる場所だ。その一方で歩道の整備やプレハブ倉庫などの無造作な人工物の処理が課題とされた。



### 景観資源：

相A-1	白山の森入口	相B-1	白山の森参道	相C-1	大清水 水源間伐材
相A-2	白山の森広場の一本杉	相B-2	清水	相C-2	大清水 水源・歩道
相A-3	白山の森広場の桜	相B-3	調整池南側道路	相C-3	大清水 水源・沢グルミ
相A-4	城跡(相去館)	相B-4	調整池周辺	相C-4	市姫神社周辺看板
相A-5	中堤公園	相B-5	清水の森南側斜面(エルク東側)	相C-5	市姫神社周辺プレハブ
相A-6	中堤	相B-6	白山の森 杉林	相C-6	市姫神社周辺看板
相A-7	中堤	相B-7	社殿跡地の古木(神木)	相C-7	大清水周辺地域駐車場
相A-8	白山の森北空堤	相B-8	清水の森	相C-8	市姫神社通路・参道
相A-9	調整池	相B-9	白山の森(ヒマラヤ杉2本)	相C-9	市姫神社通路鳥居
相A-10	蒼前森の赤松	相B-10	城跡の堀	相C-10	市姫神社周辺石碑



**調査結果の分析:**調査の結果、活用資源が14か所、負の資源が16か所が上げられた。活用資源は白山神社とその周辺、中堤等の自然環境、大清水の遊水地と市姫神社などが上げられ、一部住民による清掃活動やかつては植林活動なども行われていたようである。しかしながら、計画的な活用や整備活動にはなっておらず、その重要性の割には市民には知られていないとの意見が出された。また、いずれも周辺部の雰囲気弱く、資源の存在が分かりにくいとの認識が共有された。

**考察:**対象とした2か所の調査区域に共通して言えることは、いずれも地域の歴史上重要な場所であったにもかかわらず、近年の人々の生活の中では必ずしも望ましい活用や維持管理がなされていないことだ。したがって周辺環境の整備も行き届かず、その存在も分かりにくいものになっている。相去地区はこのほかにも、南部藩と伊達藩の藩境の地としての史跡も多く、このまま埋もれさせてしまうには忍びないところである。地域住民だけでなく、広く市民による景観資源の把握や市内外への情報発信も望まれる。

## ② 二子地区

対象区域：地区内全域に点在する名所、旧跡 11ヶ所を調査した。

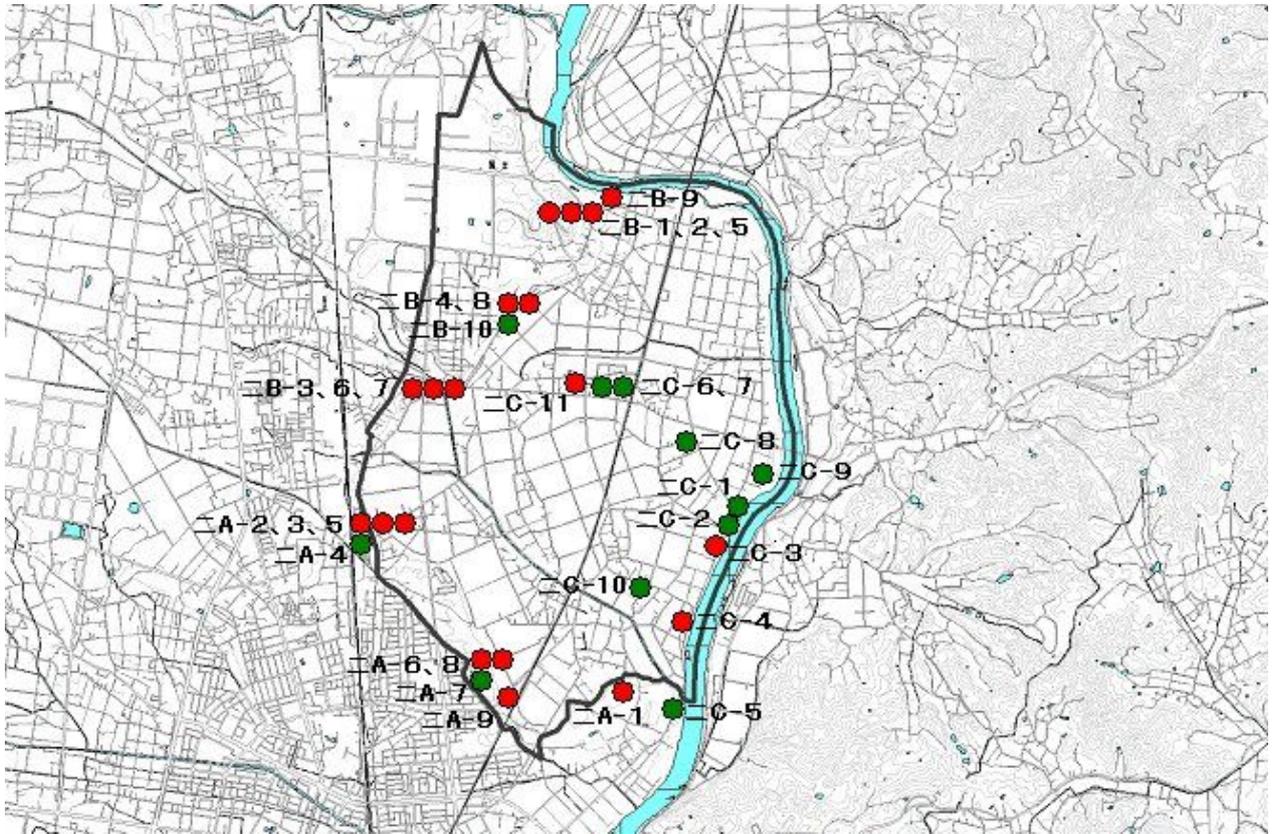
調査結果：地名の由来である二子山、飛勢城を中心に点在する神社、一里塚、斎藤ヶ沢、五輪壇など、歴史資源の豊富さを改めて確認した調査といえる。それぞれ、主に構造物についての色や形、老朽化に課題が指摘されたほか、新堰川公園では、ボランティアによる清掃継続が確認された。また、北上川周辺は眺望の良い場所が多く、地区全体としても名所、旧跡を回遊するコースが出来るほど景観資源は多い。



### 景観資源：

二A-1	菅原神社境内から北方の眺望	二B-1	飛勢公園展望台	二C-1	地藏堂
二A-2	県指定の一里塚	二B-2	飛勢公園トイレ	二C-2	尻引船場
二A-3	二子一里塚	二B-3	五輪壇登り口	二C-3	留場から北上川
二A-4	塚越稲荷神社	二B-4	斎藤ヶ沢	二C-4	あじさいロード
二A-5	県指定の一里塚	二B-5	八幡神社階段	二C-5	小鳥崎のカヤの木
二A-6	新堰川の河川公園	二B-6	五輪壇からの眺望	二C-6	熊野神社
二A-7	新堰川の河川公園	二B-7	五輪壇案内看板と入口からの階段	二C-7	熊野神社ゲートボール場
二A-8	新堰川の河川公園	二B-8	斎藤ヶ沢 浸食防止	二C-8	秋葉山
二A-9	蟹沢坂からの二子の眺望	二B-9	白鳥神社参道	二C-9	下川端イチョウの木
		二B-10	斎藤ヶ沢	二C-10	熊野神社(岡島)
				二C-11	旧二子役場

凡例 ●：活用資源 ●：負の資源



**調査結果の分析:**調査の結果、活用資源が11か所、負の資源が19か所が上げられた。活用資源は地名の素になっている二子山や飛勢城をはじめ、数多くの旧跡や寺社、自然景観があり、そのほとんどが住民によって活用され、よく整備されていた。何よりも景観資源の数の多さには目を見張るものがある。また、当該地区ではそれら景観資源の案内図を作成しており、地域住民の強い思いが伝わる。景観まちづくり方針についても、階段手すりの整備や展望台の高さ、休憩所の設置、草刈りなどの具体的な維持管理の意見が多く出されている。

**考察:**調査結果に表れているように、二子地区のイメージを形成しているともいえる豊富な景観資源におどろいた。今後はこれらの資源を地域だけのものにせず、広く北上市民にも触れていただくためには、景観資源それぞれの間の人や自転車、車などの動きを考慮しながら、景観イメージをつなぐまちづくりが望まれる。長期的な計画と息の長い取り組みが大いに期待できる地域である。

## 【まとめ】

今年度実施のB調査を通して感じた点は、いずれの景観資源も住民の活動によって大切にされていたものの、その重要性がまだまだ市民に伝わっていないということが課題である。加えて、周辺の景観やアクセスの分かりにくさなど、景観まちづくりの課題は数多い。このことは、地域がもっと美しくなり得るということ、その資源がまだまだたくさんあるということを示しているのではないだろうか。

またこの調査後、立花地区は岩手県の景観点検事業にも取り組み、景観実験によって展勝地周辺の修景を体験した。このことは、新聞各紙に大きく取り上げられたことから、多くの市民が知るところとなった。このように、B調査は単に地域の景観資源を抽出するだけでなく、住民の皆さんが景観まちづくりの効果を体験することもできる。未実施の地区については、今後機会があれば是非体験していただきたいものである。

おわりに、この業務を実施するにあたって、地域の多くの皆様にボランティア協力をいただき、大きな成果を得ることができたことに心から感謝の意を表したい。